

【報告者】津田 早紀

【学年】4年 【教科・単元名など】総合的な学習の時間 「わたしたちのくらしを見直そう」

【実践内容】

ごみを通して自分たちの暮らしを見直す活動を行ってきた。

活動の流れ

- ・ 家庭・学校のごみの種類を知る。
- ・ ごみの回収の様子や回収場所を観察する。
- ・ 環境事業センター・古紙問屋の見学を通し、集められた「燃せるごみ」「紙・布」などの処理、回収後の様子を見学する。
- ・ ごみを減らすための各家庭の工夫（生ゴミ処理機など）、商店街の工夫（おだわらエコストアシティ宣言など）など実際に取り組まれている様子、身の回りのリサイクル品など知る。
- ・ リサイクルプラザ「えこっと」の見学、講話、紙すき体験から、5R（リユース、リフューズ、リサイクル、リペア、リデュース）について学ぶ。
- ・ アメリカの清掃工場の写真から、小田原とのちがい、問題点を知る。
- ・ 通学路のごみ拾いをし、街をきれいにすると共に、ごみの種類・量などを知る。
- ・ 今まで調べてきたことの中から、まわりの人に知ってほしいこと、自分たちで取り組めることはないか考え、報告会の準備をする。
- ・ 学年報告会を行う。

ごみ拾い体験

2つの班に分かれ、学校から小田原駅までの2種類の通学路で、落ちているごみの回収をする。（1日）

教室にもどり、種類ごとにごみを分別する。

分別結果	タバコの吸殻	699	缶	38
	燃せるごみ	154	燃せないごみ	24
	食べ物のごみ（お菓子の袋など）	115	ペットボトル	14
	プラスチック	103	びん	7

↓
問題点に気づく。

【反省】

- ・ 「ごみ拾い体験」はどこかで行いたいという教師の思いを持っていたが、子ども達自身から「身の回りのごみを少しでも減らそう」「ごみの現状を知りたい」という声が出てきた。
- ・ 問題点が明確になった。
お堀端通りの植え込みの陰に缶やペットボトルなどが捨ててある現状から、「捨てている人は悪いことだとわかっていながら、ごみを隠すように捨てている」事考えられないもの（リモコン・サドルなど）まで落ちている現状タバコのごみが多いことは予想されたが、予想を上回る数の多さ食べ物のごみが多いこと
- ・ 拾ってきたごみは教室に置いておいたので、自分たちが片付けなくてはならないという意識が自然に生まれた。また、ごみの分別方法はそれ以前の学習で学んでいたが実際に行うことで、ごみの種類に自然に目がいくようになった。
- ・ 授業時数の関係でごみ拾いは1日だけの活動となってしまったが、何回か継続して行くとさらにごみに関する関心を持ち、ごみを捨てないようにする心を育てることができたのではないかと。
- ・ 紙やえんぴつなどを大切に扱い、「ごみを減らそう」と意識を変え生活を始めている子もいるが、教室のごみ、残飯を見ていると、多くの子はまだ実践する力が十分ではない。

<参考文献>なし